

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月17日

次のとおり通告します。

議 員 **こんどう 彰治**

発 言 の 種 別	質 疑	一般質問	緊急質問	討 論 (賛成・反対)	
項 目 ・ 要 旨					答 弁 者
<p>1 税源涵養策について</p> <p>(1) 企業誘致は、地域経済の活性化や新たな雇用の創出、税収増加につながることから、税源涵養のためには避けて通れないと考えるが、当市における企業誘致の現状と課題について聞きたい。</p> <p>(2) 地方税が充実し、安定した税収構造が確立することで、地域の特性に応じた行政サービスが可能となり、経済活性化の基盤にもなると考えるが、当市における市税の推移と今後の見通しについて聞きたい。</p> <p>(3) 令和8年2月執行の衆議院選挙では、消費税の廃止や税率等が争点の一つとなった。これらが現実のものとなったときには、自主財源や地方消費税交付金の減少が懸念されるが、市長はこれらの動きをどう捉えているか。また、どのように対処していく考えか。</p>					市 長
<p>2 人口減少対策について</p> <p>(1) これまで市では人口減少を食い止めるため、IT企業の誘致や市外・県外の大学などを卒業した学生の奨学金返還支援制度の創設、市外からの移住支援などの政策を進めてきたが、具体的な成果はどうか。また、これらの現状を受け、人口減少対策に関する市長の思いや考えを聞きたい。</p> <p>(2) 当市の社会減は、若い女性の転出超過が大きな要因と考えるが、その対策をどのように考えているか。</p>					市 長
<p>3 儀明川ダムにおける本体工事の早期着工について</p> <p>(1) 市長は令和7年11月26日に中央要望を行ったが、儀明川ダムの早期着工に係る要望は行ったのか。事業主体である県は令和10年度以降に本体工事に着手したいとしているが、市民は一刻も早く本体工事に着手、竣工してほしいと願っている。市長は公約で儀明川ダムの早期着工を促進するとしているが、今後どのように事業主体である県に働きかけていくのか。</p>					市 長

発言通告書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月19日

次のとおり通告します。

議員 橋 本 洋 一

発言の種別	質疑	一般質問	緊急質問	討論（賛成・反対）	
項 目 ・ 要 旨					答 弁 者
1 13区の活力向上について (1) 市長は市政運営において13区の活力向上を掲げているが、13区の課題や現状をどのように認識しているのか。また、活力向上のために具体的にどのような施策を考えているのか聞きたい。					市長
2 農業問題について (1) 「2025年農林業センサス」では、農業経営体と農業従事者が大幅に減少しているが、当市の現状を聞きたい。また、離農や廃業の要因をどのように分析し、対策するのか。当市の基幹産業である農業の維持、発展のための具体的な施策を聞きたい。					市長
3 スポーツイベントと地域の活性化について (1) 令和7年に自転車イベントの「光ヶ原高原ヒルクライム」と「上越サイクルフェスタ」が開催され、多くの参加者で大変な賑わいを見せた。市内では、この他にも様々なスポーツイベントが開催されているが、市としてより積極的な支援を行い、更なる地域の活性化と賑わいの創出に繋げる考えはないか。					教育長
4 伝統技能である「はしごのぼり」の保存継承と発展について (1) 令和7年に豊原小学校3年生が学習発表会で「はしごのぼり」を披露した。「はしごのぼり」は上越市消防団板倉方面隊が唯一継承している伝統技能であり、上越市「地域の宝」にも認定されている。この「はしごのぼり」の保存継承のため、市として消防団に積極的な支援が必要と考えるがどうか。 (2) はしごのぼりは担い手不足のため存続の危機にある。児童生徒の保護者や地域からの理解と支援を得るために、総合的な学習の時間などの教材として市内の小中学校で幅広く活用してはどうか。					市長 教育長

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月20日

次のとおり通告します。

議 員 櫻 庭 節 子

発 言 の 種 別	質 疑 一般質問 緊急質問 討論（賛成・反対）	
項 目 ・ 要 旨		答 弁 者
<p>1 町内会の維持について</p> <p>(1) 町内会組織の現状や課題について、町内会長連絡協議会や地域協議会等の場を通じて、市としてどのように把握しているか。</p> <p>(2) 人口減少の著しい地域での町内会の維持、又は統合による町内会運営の効率化を進めるため、市として支援できることはないのか。また、そのための検討は行われているか聞きたい。</p>		市 長
<p>2 空き家の活用について</p> <p>(1) 市内の空き家数と現状・課題について聞きたい。</p> <p>(2) 空き家を抱えた個人や町内会からの相談体制はどのようになっているか。</p> <p>(3) 「上越市空き家情報バンク」による空き家対策の成果と課題をどう捉えているか。</p> <p>(4) 売値がつかないような空き家も多数存在する。このような空き家に対し、他市の例にあるように地域おこし協力隊等の外部人材の導入などで、活用に取り組むべきではないか。</p>		市 長
<p>3 火災で焼失した本町6丁目の元旅館の撤去について</p> <p>(1) 火災で焼失した本町6丁目の元旅館の撤去について、市は令和6年12月定例会において「個人の財産であることから、原則的には所有者や管理者が対応すべきものであり、市では所有者の親族の方と連絡を取り、早期の完全撤去に向けた相談を重ねる」と答弁しているが、その後の経過を聞きたい。</p>		市 長
<p>4 豪雪地帯の支援について</p> <p>(1) 当市のような豪雪地帯に生きることは、金銭面や人材確保の面で大変厳しいことから、国に対してより手厚い支援を求める考えはないか。</p> <p>(2) 要援護世帯除雪費助成事業では、屋根の雪下ろしと家屋の周囲の除雪が支援対象となり、市民に喜ばれている。しかし、災害級の豪雪に苦勞するのは一般市民も同じであることから、特に災害救助法が適用になった場合などは、除雪費助成の在り方を工夫して、一般市民も含めて広く支援することは考えられないか。</p>		市 長

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月24日

次のとおり通告します。

議 員 宮 崎 朋 子

発 言 の 種 別	質 疑 一般質問 緊急質問 討論（賛成・反対）	
項 目 ・ 要 旨		答 弁 者
<p>1 若年女性の市外流出の課題と対策について</p> <p>(1) 人口減少が加速する地方都市において、若年女性の流出は長年課題となっている。市として、この課題をどう捉え、どのような対策を講じていくのか、方向性を聞きたい。</p> <p>(2) 若年女性に様々な女性のロールモデルを作り、見せていくという点において、令和5年度から実施している女性起業家創出の取組は有効と考えるが、その成果はどうだったか。また、令和8年度は取組を拡充しているが、特に力を入れる点はどこか。</p> <p>(3) 当市における若年女性を取り巻く性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）について、市としてどのように把握しているのか。また、それらの解消のためどのように取り組んでいるのか。</p> <p>(4) 若年女性が当市でいきいきと生きていきたいと思えるよう、当事者の本音を今まで以上に聞いていく必要があると考える。その点において、令和8年度に拡充する交流機会創出事業は良い機会と考えており、今後中長期的に取り組んでほしいがどうか。</p>		市 長
<p>2 大雪に対する高齢者等の支援について</p> <p>(1) 今冬も断続的な大雪だったが、市民からは、高齢ゆえの疲労感や負担感が年々増しているという声を聞いており、また除雪中の事故も多く発生した。要援護世帯除雪費助成制度の対象とならなかった高齢者は、地域のつながりの希薄化や除雪事業者の人手不足から自分で除雪せざるを得ず大変苦勞しているが、市はこの状況をどう認識しているか。また、このような人たちを救うためにも、要援護世帯除雪費助成制度の対象要件等の拡充を含め、制度のあり方を検討すべきと考えるがどうか。</p>		市 長
<p>3 当市の森林整備について</p> <p>(1) 令和8年度新たに取り組むJークレジット推進事業を行うに至った経緯と今後の取組、期待される効果や当市の森林整備事業における収益の確保をどう見込んでいるか。また、市内においては、カーボンニュートラルの実現に取り組む事業者が増えてきているが、市はこの事業のPRや販売について関係部局とどのように連携をとっていくのか。</p> <p>(2) 間伐や下草刈りは鳥獣が出没しにくい環境を作り出す上で重要と考えるが、年々深刻となっている鳥獣被害の対策を、森林整備の観点から、どのように考えて取り組んでいるか。</p>		市 長

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月24日

次のとおり通告します。

議 員 江 口 修 一

発言の種別	質疑 一般質問 緊急質問 討論（賛成・反対）	
項 目 ・ 要 旨		答 弁 者
<p>1 第3次財政計画の見直しについて</p> <p>(1) 令和8年度に令和9年度以降の財政計画を見直すとしているが、計画を策定した令和5年度からこれまでの財政運営の状況をどのように総括しているか。</p> <p>(2) 近年、実質単年度収支は恒常的に赤字が続いているが、国の補正予算を活用した実質的な令和8年度当初予算は、前年度比4.8%、約49億円増の拡大予算となっている。厳しい財政状況を踏まえると、今後の財政運営について懸念があるが、拡大予算の根拠と持続可能性について聞きたい。</p> <p>(3) 令和7年度末の財政調整基金残高は28億円の見込みだが、毎年、除排雪経費により大きく変動し、財政運営の不安定要因となっている。令和8年度の財政計画見直しにおいて、単年度収支の黒字化・財政調整基金60億円確保を明確な目標として設定し、計画を再構築する考えはないか。</p>		市 長
<p>2 第7次行政改革推進計画の見直しについて</p> <p>(1) 当市は広域分散型自治体であり、一定の職員体制が必要であることは理解している。デジタル技術や近年、目覚ましく進展する生成AIの活用などDX推進による業務効率化を踏まえ、令和9年度以降の人件費総額における抑制目標や上限管理をどのように考えているか。また、定員管理計画に反映させる考えはあるか。</p> <p>(2) 現在の公の施設における年間の維持管理費総額はどの程度か。</p> <p>(3) 人口減少が進む中、612の公の施設すべてを将来にわたり維持することは現実的ではないと考えるが、削減の優先順位や維持管理費削減における具体的な目標額は設定しているのか。また、今後令和9年度からの4年間でどの程度削減するのか明確に示すべきではないか。さらに、今後20年間を見据えた将来ビジョンを持って進める考えはあるか聞きたい。</p>		市 長
<p>3 県の医療構想と上越地域医療センター病院について</p> <p>(1) センター病院の基本計画策定について、県の医療構想が未確定の状態では拙速に進めるべきでないとするが、市の見解を聞きたい。</p> <p>(2) 県の医療構想の方向性が不透明な中であっても、「救急医療が滞らない体制の確保」、「退院後の切れ目のない医療・介護支援体制」、「通院困難者への配慮」、「医療人材の確保と定着」、「病院間および診療所との役割分担と情報共有」、「市民への十分な説明と対話」、「センター病院整備における県構想との整合性」について、市の基本姿勢を明確にした上で、守るべき最低条件として県に要望すべきではないか。</p> <p>(3) 第3次財政計画および第7次行政改革推進計画を踏まえ、財政との整合性を十分に確保した基本計画とすべきではないか。</p>		市 長

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月24日

次のとおり通告します。

議 員 高 橋 浩 輔

発 言 の 種 別	質 疑 一般質問	緊 急 質 問	討 論 (賛 成 ・ 反 対)
項 目 ・ 要 旨			答 弁 者
<p>1 当市における文化財の保存・継承及び活用について</p> <p>(1) 当市は県内最多の文化財を有するが、その「保存・継承」及び「活用」について、どのような課題があると認識しているか。また、それに対してどのような対策を講じているか。</p> <p>(2) 令和6年3月定例会一般質問において、「文化財の保存・継承と活用を進めるため、文化財保存活用地域計画を策定すべきではないか」との質問に対し、「歴史文化基本構想と趣旨は同じであるので、それに基づき文化財の適切な保存、活用の取組を行っていく」、「文化財保存活用地域計画の策定については今後必要に応じて検討する」との答弁があったが、これまでの間に計画策定についての検討は行ったのか。</p> <p>(3) 文化財の保存・継承及び活用のためには、文化財保存活用地域計画の策定が必要と考えることから、早急に策定すべきではないか。</p>			<p>教育長</p>
<p>2 当市における再生可能エネルギー導入の推進について</p> <p>(1) 市は「脱炭素社会プロジェクト」において、「再生可能エネルギー導入の積極的検討・推進」を掲げて導入可能性調査等を行ってきたが、今後も積極的に推進される方向性は維持されるのか。</p> <p>(2) 名立区において、民間主導で進められている地域資源を活用した小水力発電事業について以下の点を聞きたい。</p> <p>ア この事業の意義をどのように捉えているか。また、その進捗状況や課題等をどのように把握しているか。</p> <p>イ 市はこれまでの答弁において、「事業実現に向けて、引き続き様々な側面的支援に取り組む」としているが、この方針に変わりはないか。また、これまでどのような支援を行い、今後どのような支援を想定しているか。</p>			<p>市 長</p>

発言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年2月27日

次のとおり通告します。

議員 牧 井 邦 生

発言の種別	質疑	一般質問	緊急質問	討論（賛成・反対）
項 目 ・ 要 旨				答 弁 者
<p>1 高田城と謙信公を活かしたプロモーションについて</p> <p>(1) 江戸幕府が作成した公的な歴史書「後鑑」によれば、上杉謙信公は日本国政府を意味する「五七桐」ばかりでなく、それよりも格式の高い「菊桐紋」を賜ったとあるが、これは「皇室（ありがたがる人にとっては帝（エンペラー）」の意味がある紋である。これが江戸幕府の公式な見解だとすれば、高田城は「北極星」、「龍」、「帝（エンペラー）」の3つのシンボルで設計された城ないし御所で、これは明や清の皇宮「紫禁城」と同じものであることが分かる。これらを踏まえ、以下の点について聞きたい。</p> <p>ア 令和7年12月定例会の一般質問で説明したとおり、高田城と江戸城は対をなす設計思想であり、中国の思想によれば、江戸城の北にある北斗七星（の建築物）の上には北辰が君臨していることになるが、ここで北辰とは謙信公であり、さらに謙信公は龍であることから、江戸城の北の空に謙信公が龍となって君臨し、たたかいの神として神格化された謙信公が江戸と日本国を守護するというメッセージを込めたのが当初の高田城の設計思想であったといえる。こうした当初の高田城の設計思想を宣伝し、対となる江戸城がある東京都と協働事業を行えるよう、意見交換をはじめてはどうか。</p> <p>イ 7つの星で龍が現れるという構想は、漫画ドラゴンボールの元ネタであると聞いた。その龍が高田や上越にいるのだから、謙信公のプロモーションの際、ドラゴンボールと協働できるよう準備を進めるべきではないか。</p>				<p>市 長</p>
<p>2 「俱利伽羅不動尊御旗」の文化財指定について</p> <p>(1) 江戸幕府の政治思想は朱子学で、朱子学の下、風水を取り入れた美術が流行していた時代である。仙台城、米沢城、高田城の裏鬼門を守る位置には春日神社があり、「南方山」行事で用いられる「俱利伽羅不動尊御旗」が伝わっている。これは江戸のまちづくりの中核の設計を支える意匠を伝えるものであり、国の重要文化財に指定されてもおかしくないだけの価値があると考えられる。少なくともいち早く市の文化財に指定すべきではないか。</p>				<p>教育長</p>
<p>3 市民がエンタメに触れやすく、文化的なまちを目指す政策について</p> <p>(1) 令和8年3月のワールド・ベースボール・クラシック（WBC）のテーマソングは謙信公と同じ名前の上杉兄弟を主人公とする漫画「タッチ」の主題歌に決まった。また、今年の「風、薫る」と歩調を合わせるように、日本のアニメ映画で格別の人気を誇る名探偵コナンの令和8年春の映画プロモーションも風プロジェクトに決まった。日本のメディア、エンタメ業界では上越に追い風が吹いている。市民が文化やエンタメにより親しみやすく、流行に敏感で、より文化的なまちを目指せるよう、映画館のチケット代を補助する考えはないか。</p>				<p>市 長</p>

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月1日

次のとおり通告します。

議 員 渡 邊 希

発 言 の 種 別	質 疑 一般質問	緊 急 質 問	討 論 (賛 成 ・ 反 対)
項 目 ・ 要 旨			答 弁 者
<p>1 本気で少子化に歯止めをかける施策について</p> <p>(1) 非婚化、晩婚化の引き金となっている奨学金返済の負担感を減らすため、現在の若者奨学金返還支援助成金の適用対象者を拡大し、上越出身者や在住者だけでなく、それらの結婚相手も対象とすることで、若者のUターンやIターンを促進してはどうか。</p> <p>(2) 国の予算で行われている結婚新生活支援事業を、当市が採用していない理由は何か。少しでも経済的な負担を減らし、結婚を促進してはどうか。</p>			<p>市 長</p>

発言通告書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月1日

次のとおり通告します。

議員 ストラットン 恵美子

発言の種別	質疑	一般質問	緊急質問	討論（賛成・反対）	
項 目 ・ 要 旨					答 弁 者
1 公立学校情報機器の活用について (1) 当市の小・中学校では国のGIGAスクール構想を受け、無線LAN環境及び児童生徒1人1台端末の整備完了から約5年が経過した。当市における学習面での導入の成果について伺いたい。 (2) SNSトラブルやいじめ、ネット依存など、デジタル環境の拡大に伴う児童生徒の精神面・生徒指導上の課題について、必要な対策をどのように行なっているか。 (3) GIGA端末は卒業時に市へ返還すると認識しているが、端末内に保存された個人情報や学習履歴等のデータの初期化や消去、またクラウドに保存されたアカウント管理を含め、各学校での対応について万全であるか。 (4) 令和8年度に端末更新が予算化されているが、当市におけるGIGAスクール構想は今後どのような方針展開がなされていくのか伺いたい。					教育長
2 小学校給食の無償化について (1) 令和8年度から国の「給食費負担軽減交付金」及び「重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、小学校給食費の無償化が提案されている。持続的な事業の実施等に当たっては今後も国の補助が必要であり、引き続き要望していく考えも示された。一方で保護者からは、給食の質の担保や地産地消を重視する声も多い。当市はこれまでも食育の推進や、行政部局との連携も図り、地元食材の活用を進めてきたところであるが、こうした取組も踏まえ、国の基準額を上回る分の給食費負担の在り方について、市の見解を伺いたい。					教育長
3 放課後児童クラブ日曜・祝日の試行開設について (1) 市では令和6年4月より、利用ニーズの把握を目的として放課後児童クラブの日曜日・祝日開設を試行してきたが、令和8年度の本開設に至らないと判断した理由は何か。また、事業終了にあたり、利用者に対してどのような説明や配慮を行ったのか伺いたい。 (2) 試行終了に伴い、日曜・祝日に就労する世帯への支援はファミリーサポートセンター事業が担うとしているが、日曜・祝日も就労する世帯に対する支援の在り方について、市としてどのように整理しているか。					教育長 市長
4 多文化共生推進事業について (1) 令和6年度から、言葉がわからない外国人市民への支援を目的に地域外国人支援協力員が配置され、2年が経過する。これまでの取組に対する評価や、支援員が活動する中で見えてきた現場での課題はどうか。 (2) 現在、地域外国人支援協力員は外国人市民に対するコミュニケーション支援を主な役割とするが、多文化共生の推進に向け、現場の声や知見を生かした助言、意見の共有など、役割の充実を図る必要があると考えるがどうか。					市長
5 「発酵のまち上越」の推進について					市長

(1) 上越市では、民間を主体に、酒・味噌・麴などの発酵文化を生かした「発酵のまち上越」の取組が広がっている。発酵文化は、本市の歴史や風土の中で育まれてきた地域資源であり、第7次総合計画に掲げる「魅力と活力があふれるまち」の実現や、市長が掲げる「Meet Japan in Joetsu」にも資する重要な魅力であると考え。こうした民間の取組と連携しながら、「発酵のまち上越」を本市の強みとして文化の発信や観光振興をさらに推進していくべきと考えるが、市長の見解を伺いたい。

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月3日

次のとおり通告します。

議 員 上 野 公 悦

発 言 の 種 別	質 疑	一般質問	緊急質問	討 論（賛成・反対）
項 目 ・ 要 旨				答 弁 者
<p>1 訪問介護制度の危機的状況と今後の支援の在り方について</p> <p>(1) 近年、全国的に訪問介護サービス事業所の閉鎖が相次いでおり、訪問介護を必要とする高齢者が適切な支援を受けられず、家族の介護の負担が増加するなど、社会に深刻な影響を与えている。在宅介護を支える最後の砦である訪問介護制度が崩壊の危機に瀕しているが、市はこの危機的状況をどのように受け止めているか。また、このような状況は県内や当市も例外ではないと思うが、市として実態を把握しているか。</p> <p>(2) この問題には、基本報酬の引き下げに起因する人材不足など、事業者の努力ではどうにもならない構造的な要因があると考えますが、市長はどう捉えているか。</p> <p>(3) このままでは訪問介護の根幹に関わるリスクの増大やサービスの低下、地域包括ケアの崩壊が起きると思うが、どう考えているか。</p> <p>(4) 制度維持のため、市として国や県に訪問介護の基本報酬の再引き上げを求め、地方の実情に沿った訪問介護ヘルパーの移動時間の報酬化に関する制度設計を行うこと、燃料費高騰への恒久的な補助制度を創設すること、介護職員の処遇改善を抜本的に強化することを求めています。また、当市独自の支援策として、基本報酬引き下げ分の差額補填、訪問介護で使用する車の燃料費支援、その他必要と思われる支援の制度を構築してはどうか。</p>				<p>市 長</p>
<p>2 公共施設等のトイレの洋式化について</p> <p>(1) 市民が様々な会議やイベント、避難所として利用している公共施設のトイレについて、洋式化の現状と整備方針について聞きたい。</p> <p>(2) 市民の利便性向上やバリアフリーの観点から、トイレの洋式化の状況に関する全庁的な調査を実施する計画はあるか。また、その調査結果に基づいて具体的な洋式化の整備計画を策定する考えはあるか聞きたい。</p>				<p>市 長</p>

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月3日

次のとおり通告します。

議 員 山 本 佳 洋

発 言 の 種 別	質 疑 <input checked="" type="checkbox"/> 一般質問	緊 急 質 問	討 論 (賛 成 ・ 反 対)
項 目 ・ 要 旨			答 弁 者
<p>1 フリースクール等の認定について</p> <p>(1) 上越市フリースクール等利用支援補助金交付要綱において「フリースクール等」とは、保護者、学校長及び教育委員会が協議し、教育委員会が利用を認めた施設とあるが、協議や利用認定に際しては具体的にどのような点を考慮しているのか聞きたい。また、個々の施設に係る協議や利用認定の頻度はどの程度の間隔で行われているのか。一度認定を受けるとその後は特段の協議がないまま認定されているようなことはないか聞きたい。</p>			<p>教育長</p>

発言通告書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月4日

次のとおり通告します。

議員 滝沢 一成

発言の種別	質疑 一般質問 緊急質問 討論（賛成・反対）	
項目・要旨		答弁者
<p>1 地下水保全の権限について</p> <p>(1) 上越地域では、「新潟県生活環境の保全等に関する条例」によって、指定地域での揚水設備の設置、地下水採取が規制されている。また、地下水の採取に関する規制等の事務を県が行い、地盤沈下注意報・警報の発令・解除、緊急時対策の周知・広報、節水要請は県の権限となっている。今冬も1月22日県から地盤沈下警報が発令され、揚水量50%削減が要請された。また、昨夏の渇水では飲料水だけではなく、農地の水確保等でもぎりぎりの線まで市民は追い詰められ、緊急対応として地下水を利用したが、一部県との調整を要したと聞く。市民のいのちや生活、生業を支える大切な水資源を、現状では市が主体的に管理できていないと言わざるを得ない。昨今の異常気象が頻発する状況下、危機管理を考えると、市民を最も身近な立場で守る市が、より柔軟に水資源を活用、規制できる権限と仕組みを持つことが合理的であることから、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 「長岡市地下水保全条例」あるいは「新潟県生活環境の保全に関する条例／第5章地盤環境の保全／第1節地盤環境の保全に関する施策の推進・第2節地下水の採取に関する規制等」に類する条文を記した、市独自の「上越市地下水保全条例（仮称）」を制定、あるいは「上越市生活環境の保全等に関する条例」の改定をすべきと考えるがどうか。併せて「長岡市地下水保全条例施行規則」に類する「上越市地下水保全条例施行規則（仮称）」をつくるべきと考えるがどうか。</p> <p>イ 地盤沈下観測・調査・解析など専門性の高いセクションは県に任せつつ、地下水の採取に関する規制等の事務、地盤沈下注意報・警報の発令・解除、緊急時対策の周知・広報、節水要請等の権限を、県から市へ移譲してはどうか。</p> <p>ウ 渇水、豪雪等非常事態時の水資源の確保対策として、消雪用地下水、工業用地下水等に関し、目的外使用、期間外使用（期間延長）、取水量の裁量等を市に委ねるよう県と調整してはどうか。</p> <p>エ 県下第3の人口を擁する中枢中核都市として、水資源に対し自主自立の権限と責任を担うことができれば、環境分野、農業分野、産業分野等に幅広く資すると考えるがどうか。</p>		<p>市長</p>
<p>2 地籍調査と3D都市モデルについて</p> <p>(1) 上越市がこれから発展していくためには、「地籍調査」と「3D都市モデル」の推進が欠かせないと考えことから、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 国が地籍調査を推奨している中、全国での進捗はおよそ半分、新潟県で約35%、上越市では約30%しか完了していない。地籍調査が進まないと災害時に大きな支障が出ると想定されるが、現状では到底災害に強いまちづくりとは言えない。また、3D都市モデルの整備を進めるにあたって、正確な地籍が確定していなければ、根本的に土台が定まらない。長期にわたる事業ではあるが、計画的かつ継続的な地籍調査を行うべきと考えるがどうか。</p>		<p>市長</p>

イ 令和2年度からスタートした「Project PLATEAU（プラトール）」は、スマートシティをはじめとしたまちづくりのDXを進めるため、そのデジタル・インフラとなる3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進する国土交通省のプロジェクトである。令和5年度に国土交通省が、上越市内の一部の区域を対象に3D都市モデルを整備し、オープンデータ化され、誰でも活用できる状態となっている。国は、3D都市モデルがまちづくり（都市計画）、防災（浸水・土砂災害リスクの可視化）、観光・地域活性化、インフラ維持管理、交通・物流、健康・福祉、環境・エネルギー（例：太陽光ポテンシャル分析）の分野で活用できるとしているが、市は整備範囲の拡大を含め、これから発展させていく考えはあるか。

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月6日

次のとおり通告します。

議 員 高山 ゆう子

発 言 の 種 別	質 疑 一般質問	緊 急 質 問	討 論 (賛 成 ・ 反 対)
項 目 ・ 要 旨			答 弁 者
<p>1 観光施策の方向性と今後の展開について</p> <p>(1) 通年観光計画に位置付けられる各事業の効果を「第7次総合計画後期基本計画などの主要計画を検討する中で見極める」としているが、「主要な計画」の検討には、通年観光計画における「3つの地域」の各事業も含まれるのか。また、合併13区の特性を活かした今後の観光施策の展開について、市長の見解を聞きたい。</p> <p>(2) 「うみてらす名立」のリニューアル計画について、当市の西の拠点である「うみてらす名立」は、建設から25年が経過し、老朽化への対応と機能更新が急務である。前市長は、令和12年頃の改修を目指す方針が示されていたが、市長の認識と、今後の改修スケジュールの見通しについて聞きたい。</p>			市 長
<p>2 地域自治の推進について</p> <p>(1) 令和10年度の制度開始を目指す中で、地域自治の活動を活性化するための財源支援制度については、様々な課題の解消が急務であることから1年前倒しし、令和9年度から新制度へ移行するとした経緯について聞きたい。また、地域自治を推進するにあたり、今後の方向性と、仕組みの強化に向けた市長の考えを聞きたい。</p>			市 長
<p>3 市役所木田庁舎の環境整備と福利厚生の上昇について</p> <p>(1) 現在、多くの市職員は自席で昼食や休憩を取らざるを得ない状況にある。働き方改革や福利厚生観点から、リフレッシュ可能な休憩スペースを確保・検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 開放的な空間である市役所1階の市民ホールは、現状では活気が乏しい。テーブル・椅子の増設やBGMの導入など、市民と職員が共に利用できる「ラウンジスペース」として再整備し、庁舎の賑わいを創出する考えはないか。</p>			市 長

発 言 通 告 書

上越市議会議長 渡邊 隆 様

令和8年3月6日

次のとおり通告します。

議 員 平良木 哲也

発 言 の 種 別	質 疑 一般質問	緊 急 質 問	討 論 (賛 成 ・ 反 対)
項 目 ・ 要 旨			答 弁 者
<p>1 市内の鉄道各駅の屋根付き駐輪場について</p> <p>(1) 市内の鉄道各駅の屋根付き駐輪場の整備状況はどうなっているか。</p> <p>(2) 屋根付き駐輪場が不足している駅には早急に整備すべきではないか。</p> <p>2 消火栓について</p> <p>(1) 市内における多雪型消火栓への更新状況はどうなっているか。</p> <p>(2) 積雪が支障になる消火栓を常時使えるようにすべき体制はどうなっているか。</p> <p>(3) 多雪型消火栓に更新されていない消火栓は、一刻も早く解消すべきであるが、どうなっているか。</p> <p>3 防犯灯について</p> <p>(1) 町内会向けの補助事業でLED化を行った防犯灯は、順次寿命を迎えることになるが、その際の更新費用について、どう考えているか。</p> <p>(2) 町内会の加入率が低下した場合は、防犯灯の設置費用などは一部の住民が負担することになり、公平性が保てない。そこで、地域の防犯灯の設置、修繕、更新を市の責任で行うこととすべきではないか。</p>			<p>市 長</p> <p>市 長</p> <p>市 長</p>

